

# いっしょに楽しく書いちゃおう!

## 全員参加で80周年記念行事を成功させましょう

# 中日会報

公益社団法人中部日本書道会  
編集事務局編集室  
〒450-0002 名古屋市  
中村区名駅二丁目45-19  
山ビル8階C号室  
電話 (583) 19000番  
FAX (583) 19100番  
http://www.cn-sho.or.jp  
info@cn-sho.or.jp  
印刷 株式会社 荒川印刷

### 創立八十周年に思う

—— 何のために書を  
学び続けるのか ——



名誉会長  
海部 俊樹

公益社団法人中部日本書道会が創立八十周年を迎えられたこと誠におめでとございます。いきなり私事で恐縮ですが、私が新人議員として、当時の桑原幹根会長に伴なわれて初めて中日書道会にお邪魔してから議員生活を終えるまでの五十年間、一貫して本会に名を連ねさせて頂きました。そして現在もなお名誉会長として度々皆様方にお会いしているわけであり、私の活動期間は丸ごと本会の歴史の中期以降に重なります。

そのことを私は喜びとも誇りとも感じ、この記念の年にあたり心からの祝意とともに感謝の気持ちも伝えたいと思います。

さて、この国は、様々な場合に、文化的にも地理的にも、東日本・西日本と分けて語られることが多いのですが、ここ名古屋はそのほぼ中

央に位置します。この地で東西いずれにも偏することなく、独自の書道統合団体を立ち上げ、ここまで育ててこられた先人の知恵と工夫、そして何よりその志を私たちは忘れてはなりません。

書道は文化的・精神的な活動です。教育にも深くかかわっています。

一方、本会も毎年大規模な「中日書道展」学生「書きぞめ展」等を開催し、そこでは当然に作品の優劣が判定され、競争の論理が働きます。そして会員のランク付けも発生します。

それは避け難いことです。人の世はすべからず競争社会の一面を持つことは否定できませんから。そこで味わう一喜一憂が人を励まし努力を促すこともあれば、挫折感を味わうこともあるはず

です。

しかしというか、だからこそというか、私たちは常に「何のために書を学び続けるのか」という原点に立ち戻るべきだと私は思います。度々申し上げていることですが、書を学ぶことで、人は自分を磨き、鍛え、育てていくのでなければなりません。そのような鍛錬活動が続けて頂きたい。特に指導者の方にはその姿勢を貫いて頂きたい。それが八十年の歴史を築いてきた先人の志を受け継ぐことではないでしょうか。

中日書道会の現在と今後に大きな関心を寄せ期待を抱く者として敢えて申し上げます。

原点・理想主義を忘れてはならない、と。

「八十年の歩み」より抜粋

### 目次

- 1 創立八十周年に思う 海部俊樹名誉会長  
—— 何のために書を学び続けるのか ——
- 2 八十周年記念事業内容  
—— 印象に残った二大行事 —— 榎本樹郎名誉副会長  
—— 若い力の未来に —— 安藤滴水名誉副会長  
—— 感謝 —— 理事長 鬼頭翔雲
- 3 創立八十周年記念事業詳細
- 4 後藤啓太氏 愛知県芸術文化選奨文化新人賞受賞  
日展中日賞を受賞して 磯谷凌聴氏
- 7 平成二十五年第六回理事会・評議員会  
日展入賞者、読書法展・毎日書道展受賞者懇談会開催  
常任顧問伊藤天游先生を偲んで
- 8 平成二十五年年度講演会を開催して
- 9 平成二十五年第六回理事会議案書
- 14 第六十四回中日書道展運営委員会  
開催日程表
- 16 第六十四回中日書きぞめ展
- 22 第三十一回読書法展 当番審査員  
第六十六回毎日書道展  
支部だより(下半年)

### 八十周年記念事業内容

開催日時

平成二十六年五月二十五日(日)

午前十時～午後四時

内容

- 一、大字書のギネス認定
  - 二、中日書道会の会員による大字揮毫
  - 三、賀寿の書
  - 四、留学生による書道体験
  - 五、小中学生による大字揮毫
  - 六、書のパフォーマンス
  - 七、体験参加型コーナー
    - あなたも書家気分
    - 篆刻コーナー
    - にぎり墨コーナー
    - ハンカチなどへの揮毫コーナー
- 他 一、「八十年の歩み」発行  
二、第六十四回中日書道展におけるの  
記念事業
- ① 席上揮毫会
  - ② 「公益社団法人中部日本書道会  
八十年の歩み」のパネル展示
  - ③ 五月二十五日(日)実施  
オアシス21での揮毫作品展示
  - ④ 同記念イベントの録画ビデオ放映  
(詳細はP4～5に記載)

## 本会創立八十周年に思う —— 印象に残った二大行事 ——



名誉副会長  
樽本 樹 邨

中日書道会が創立されてからめでたく、八十年を迎えることが出来ました。ひとえに先人のご苦労、会員皆様のご支援、ご協力があったので、新たに心より感謝申し上げます。

八十年間にはいろいろな事がありました。その中でも印象に残った二つの件について書きとどめたいと思います。

一つには愛知万博出展参加があります。二年前から出展に際して立候補することを決議し、その後、内容をどのようにするか役員一同試行錯誤してまいりました。その結果先ず「世界の show・日本の書」というタイトルと内容をアピールするため各社マスコミメディアに大きく取り上げていただきました。私達日本人の誇りうる言語文化を漢字、かな、カタカナを自在に使用し、表記する文化は世界に唯一つしかありません。しかもこれらは毛筆による表記でありこれが美へと発展する日本文化は世界一すばらしいといっても過言ではありません。

書は芸術的で難解なものと言イメージを払拭し、「生活する書」「楽しむ書」「偉大な書」「やってみよう書」を念頭に置いた企画を決定し、海外へも発信しました。結果的には八万二千人を超える人々の入場があり大成功をおさ

めました。

来館された方々からは賞讃やら、ねぎらいのお言葉を多くいただきましたが、中部の力が一丸となって発揮出来たことが何よりの喜びとなりました。

今一つは学校教育に於ける「書写」「書道」の充実を願う請願の署名を行なった事です。我が国の書写・書道教育については指導要領に目標が示されていますが、いまだその実現にはほどとおいものであるため、我々中日書道会では署名は十万人を集めることができました。それは愛知県議会で採択され、愛知県教育委員会を通じて各学校に通知されました。その結果、「書写」授業を年間三十時間以上実施した。小学校は82・4%となり、(前年度に比べて0・9%増)、中学校においては一年生で二十八時間以上実施した学校は34・4%(前年度比10%増)に、二、三年生で十時間以上実施している学校は中学二年では32・5%(前年度比7%増)、中学三年生では26・8%(前年度比7・7%増)となり、皆さんに書に対する熱意が書教育に反映され、実現されたことにはっといたしました。今やIT全盛の時代となり、その上少子化問題が出てまいりました。長い歴史の中で培われてきた書写能力や技術が徐々に希薄になっていくのではないかと心配されています。

今回八十周年を機として過去を振り返り新しい未来に向けて、一層の充実で計りたいと願うものであります。

「八十年の歩み」より抜粋

## 創立八十周年を迎えて —— 若い力の未来に ——



名誉副会長  
安藤 滴水

今年創立八十周年の年になります。今、私の手元には昭和三十八年六月に発行された「中日会報」第一号から現在の一七二号が机上にあります。中日展の推移、海外との交流、桑原幹根、海部俊樹両会長のご就任、世界デザイン博、近年最大の事業でありました愛知万博への出展、公益法人の認可等々、会報はその折々の時代を刻明に伝え、中部日本書道会の足跡を知る貴重な資料になっております。

私は、昭和四十四年に本会に入会をさせていただきました。昭和三十八年の在籍になりますが、平成十八年はまさに青天の霹靂でした。浅学非才の私に理事長の職責の要請をいただいたからです。過去に溯れば理事長の顔ぶれは謙慎系あるいは、日展系の先生方が務められ本会を牽引されてきました。

私は大いに悩みました。正直に吐露すれば対外的に通用する知名度、肩書きもありませんでした。私なりに内部事業に専念すべく立案した一つは若年層の導入でした。年齢層が高く本会の構成が明らかに逆ピラミッドだったからであります。

今、結果から見れば、この高大生を対象とした若年層の導入は協賛会員の皆さんに表装代の軽減をお願いし血を吐く決断をいただいたから可能になったことで、このご協力

がなければ到底実現できえなかったことと感謝しております。

そして、もう一つはその翌年に七十五周年記念イベント「わっ書い」を企画、オアシスの広場に集う若者らの中には中日展に出品をいただき五〇〇名を越える若年層の出品に少なからず結びついたことは、先生方のご協力をいただいたからであり感謝の念で一杯です。

本会は、先輩の先生方が大変元気であります。折しもソチオリンピックにおいて若い世代の活躍が目立ち私達に感動を与えております。今大会、特に世界中に感動の渦を巻き起したことがあります。誰もがメダルをねらいメダルを期待する中で、自分自身が納得する今までの苦しかった練習の成果を皆さんに観てもらえればいいと精一杯頑張った選手がいました。この出来事は毎日いかに真剣に練習したかという証であり、大いに書にも通することです。書はアスリートのように短期ではなく一生をかけて問いかけて行くものです。

中部日本書道会四七〇〇人の会員の皆様がこの先も夢を持ち続け、本会とご自身の発展の為に未来に向けて進まれますよう願っております。

「八十年の歩み」より抜粋

## 創立八十周年にあたり

——感謝——



理事長  
鬼頭 翔雲

本会は本年、創立八十周年を迎えました。この大きな節目の年を迎えるにあたり会誌「八十年の歩み」を刊行し、本会の足跡を振り返ると共に将来への展望を見据えることは真に意義深いものがあると考えます。

本会は昭和九年、大島君川先生のもと、四五〇名の会員により「中部日本書道連盟」として創設され昭和二十一年、「中部日本書道会」と改称されました。その翌年「第一回中日書道展」が開催されました。既刊の「六十年の歩み」によれば、更にその翌年「第二回中日書道展」は開催されましたものの、その後の四年間は開催されていません。そして昭和二十八年に『第三回中日書道展』が開催された。於名駅前商工館」と記述されています。終戦直後の混乱している社会情勢の中、本会も厳しい諸事情があったことを如実に物語っています。

私は昭和五十八年に教育部長を拝命し翌年の「第一次中部日本書道会芸術文化交流友好の翼訪中団」に同行し、「中学生展」での最優秀者の皆さんと共に日中児童の交流を図ったこと、平成元年、世界デザイン博協賛「こころの書・夢の書」へ記録統計部長として参画したこと、そして平成十七年、「愛・地球博」(愛知万博)の際、樽本樹郎理事長のもと事業部長としてメイン・テーマ「世界の書・日本の書」

という国際的な事業に関わったことなどが思い起こされます。また、平成二十年には安藤滴水前理事長が、「若年層出品」制度を新設し、若者出品者の経費負担軽減を行い会員増のための施策を行い、お蔭様で近年五〇〇余点の若年層出品を得ております。今後はその若者たちの「書」に携わる定性性を高めることにも更なる検討を重ねて参らねばなりません。

さて、本会は平成二十三年十月、「公益社団法人」の認可を受けました。公益社団法人として最も求められているのは事業の「公益性」であり、一般社会に如何に門戸を開けているか、であります。本会では中日書道展・中日書きぞめ展・寿書展は公募しており、書道教育研修講座・公開講座・講演会等もインターネットや、各種報道機関等を通じて一般市民の参加を呼び掛けています。福利厚生事業も一般参加者を募っています。このことは支部活動においても同様であります。この公益性をより重視して参らねばなりません。開かれた仕組み、楽しい雰囲気作りは「書の魅力」「書の意義」「書の重要性」を一層喧伝できるものと思えます。そのことが輝かしい歴史と伝統を誇る本会に与えられた使命と責任であると考えます。

公益社団法人中部日本書道会創立八十周年を記念して「八十年の歩み」の発刊と、「いっしょに書い」  
と銘うって五月二十五日名古屋オアシス21「銀河の広場」にて記念事業を開催することになっております。会員皆様の絶大なるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

長い歴史の中での大先人・大先賢・大先輩の諸先生のご苦勞、ご尽力、ご貢献に対し、衷心より感謝を申し上げます。挨拶とさせていただきます。

## 6 『賀寿の書』

中部日本書道会を今日まで築き上げてきた先生方による揮毫

- ・1.6m×1.6mのパネルに1.4m×1.4m(全紙二枚)の紙を張り、ステージ上にて揮毫いただき(パネルを立てた状態での揮毫・パネルに乗っての揮毫どちらも可能)、揮毫していただいたパネルはステージ上に設置します。(イベント終了まで)

## 7 留学生による書道体験

留学生(大学生)による大字揮毫

- ・縦3m×横1.8mの紙に10ヶ所で揮毫いただきます。(参加者10名を予定)



## 8 小・中学生による大字揮毫

- ・縦3m×横1.8mの紙に10ヶ所で揮毫いただきます。(参加者60名を予定)
- ・参加希望者は申し込みをしていただく(締め切りは4月24日(木))

## 9 書のパフォーマンス

- ・参加団体の範囲:高校生・大学生及び16歳以上22歳未満によるチーム
- ・1チームの人数は自由
- ・1チームのパフォーマンス持ち時間は3分
- ・8m×5mの紙と墨液は支給し、それ以外のものは各チームで用意していただきます。
- ・審査方法:表現力・技術力を点数化。1チームごとに採点し、テレビ画面を利用して点数と順位を即座に発表し、参加全チームに賞を授与します。
- ・参加申し込み:参加希望チームは申し込みをしていただく。(締め切りは4月17日(木))  
書類選考のうえ出場チームを決定します。(15チーム以内)



## 10 体験参加型コーナー

当日来場いただいた方は、以下のコーナーを無料で参加できます。

### ○あなたも書家気分

- ・イベント会場で揮毫した書を中日書道展会場(愛知県美術館通路展示スペース)に展示。
- ・半紙サイズ額にはまる書けるボードに揮毫してもらう。
- ・選抜審査をして展示→通知を郵送
- ・展覧会場にはイベント参加者の作品であること

を明示し、揮毫会場風景等の写真を展示。

- ・展示作品は後日返却。
- ・年齢制限は設けない。
- ・200名程度を予定。

### ○篆刻コーナー

- ・参加者がトレーシングペーパーに手書きしたひらがな1文字をそのままの形で篆刻家の先生方が印材に刻します。
- ・依頼・無鑑査の先生にご協力を依頼。(10名~15名の先生にお願いしたい)
- ・印を入れる箱を付ける方向で検討中
- ・簡易コピー機を利用して印材への転写を予定

### ○にぎり墨コーナー

- ・100名程度を予定

### ○ハンカチなどへの揮毫コーナー

- ・多くの方が揮毫できるよう予定しています。



## (4) 第64回中日書道展覧会場(愛知県芸術文化センター)の記念事業

中日書道展開催中に以下の記念事業を行い、来場された皆様へ、中部日本書道会の歴史と信頼性、イメージの向上、及び書の興味を更に持っていただければと存じます。

### 1 席上揮毫会

展覧会場ロビーにおいて、5部門(漢字、かな、近代詩文、少字数、篆刻・刻字)の先生方による席上揮毫を行います。

### 2 「公益社団法人中部日本書道会 80年の歩み」のパネル展示

中部日本書道会80年の歴史の中から、主な行事・活動内容等をパネルで展示します。

### 3 オアシス21の揮毫作品の展示

オアシス21の書道体験コーナーで、揮毫された書を選考の上通路展示スペースに展示します。

### 4 オアシス21の記念イベント録画ビデオの放映

オアシス21で実施しました記念イベントの録画を、展覧会場に大型テレビを設置して放映します。



## 公益社団法人中部日本書道会

# 創立80周年記念事業

### 記念事業の趣旨

公益社団法人中部日本書道会は、昭和9年創立以来、先人の先生方と現会員の皆様のご努力により発展を続け、平成26年80周年を迎えます。この節目の時期にさらに中部日本書道会の充実と発展、会員の皆様の書道活動や社会に貢献するために記念事業を実施したいと存じます。多くの皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

### 創立80周年記念事業の予定

#### (1) 創立80周年記念誌の刊行

公益社団法人中部日本書道会創立80年の節目として記念誌を刊行し、これまでの中部日本書道会の歴史、足跡を再認識していただき、情報を提供し信頼感を高め、今後の大きな発展につながればと存じます。

- 1 **タイトル**：公益社団法人中部日本書道会  
80年の歩み
- 2 **規格**：A4版 400ページ  
本史白黒 一部カラー
- 3 **内容**：前段の内容「挨拶・役員・重大行事」  
本史の内容  
「各年度別の行事・実施内容」  
資料編  
「定款・規程・各種展覧会・講演会・  
講習会・事業・イベント・会員数他」

#### (2) 創立80周年記念リーフレット

中部日本書道会の歴史、足跡等の「公益社団法人中部日本書道会創立80周年記念リーフレット」を作成して、全会員および関係機関、一般社会（児童から一般）の皆様に配布したいと存じます。中部日本書道会の80年の歴史を知っていただき、広く社会に中部日本書道会の情報を提供し、歴史と信頼性、イメージの向上、書道の魅力・興味を持っていただき、本会の更なる発展につながる「きっかけ」になればと思います。

- 1 **タイトル**：公益社団法人中部日本書道会  
創立80周年記念  
《これまでも、そしてこれからも》（仮称）
- 2 **規格**：A4版・4枚・8ページ両面、  
観音開き、フルカラー
- 3 **内容**：80年の足跡  
（沿革、主たる行事・イベント）

#### (3) 創立80周年記念イベント《オアシス21の計画案》 記念イベントタイトル

『いっ sho 懸命 楽しいっ書!』

- 1 **イベント開催日時**  
平成26年5月25日(日) 午前10時～午後4時
- 2 **場所**  
オアシス21 銀河の広場
- 3 **会場設営**
  - (1) ステージ 縦5.4m×横9mを予定
  - (2) 大型スクリーンに関して  
・60インチを4枚合わせたスクリーン  
1台を予定  
(ステージ上後方)  
・カメラ3台  
(固定カメラ1台・ハンドカメラ2台)
- 4 **大字書のギネス認定**  
縦10m×横15mの紙を用意し、漢字一字書の大きさでのギネス認定を目指します。
- 5 **中日書道会の先生による大字揮毫**  
・8m×5m(縦横自由)の紙を5ヶ所用意  
・中日書道会5名の先生(様々な会派)による揮毫



# 後藤啓太氏 愛知県芸術文化選奨文化新人賞ご受賞



後藤 啓太

この度、平成二十五年度、愛知県芸術文化選奨文化新人賞を賜りました。

海部俊樹名誉会長、樽本樹邨名誉副会長、安藤水名名誉副会長をはじめ、多くの先生方、中部日本書道会を築かれた先人の先生方のおかげと、厚くお礼を申し上げます。

三月十二日、愛知県庁の講堂において授賞式が行われました。賞状の乗った黒塗りの盆を、職員の方が恭しく高く上げ、大村秀章知事の前に進み出る様子を、名誉な賞を頂戴したと緊張と感激で身の引き締まる思いがしました。



大学を卒業後、幼少からご指導いただいた故加藤大碩先生の内弟子として書の道に進むことを決意し、三十年が過ぎました。節目の年にこのような栄えある賞をいただき誠に嬉しく思います。

本年、中部日本書道会は創立八十周年を迎えます。鬼頭理事長が目標とされています「一致結束、全力、前向き」を胸に刻み、本会が更なる躍進を遂げるよう努力する所存です。この賞を新たな出発点として、一層精進して参ります。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

# 日展中日賞を受賞して



磯谷 凄聴

この度、第四十五回日展東海展におきまして中日賞をいただき、喜びの気持ちでいっぱいです。平素から暖かくご指導をいただいた諸先生方のお陰と深く感謝申し上げます。

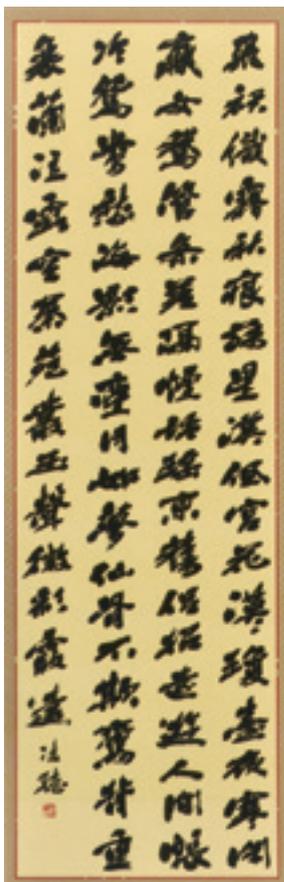
去る二月一日、愛知県芸術文化センター・アートスペースにおきまして、授賞式がありました。中部日本書道会常任顧問の中林路風先生より、ご高評と励ましのお言葉をいただき、感激で胸が震える思いがいたしました。

今回の作品は、蘇東坡の歯切れのよ

い線質とともに無理のない沈静な趣にあこがれ、それを表現したいと思いつきました。それぞれの行に流動的な美しさを求めるように心掛けましたが、紙質と墨量の調和に悩み、反古ばかりとなる毎日でした。

今回の賞の重みを心に刻み、一層の努力を重ね、新たな目標に向かって精進する覚悟です。今後とも諸先生方のご指導ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

第四十五回日展出品作品 (高青邱 詩)



# 平成25年度 第6回理事会・評議員会 開催 日展入賞入選・読売書法展・毎日書道展 受賞者 祝賀懇談会

## 祝賀懇談会を開催して

厚生部長 小島 瑞 柳

平成二十六年二月十一日(火)に名古屋観光ホテルに於いて、平成二十五年度第六回理事会、第一回評議員会の祝賀懇談会が開催されました。

まず始めに、鬼頭翔雲理事長から『中部日本書道会が今年四月に創立八十周年を迎えるので二つの事業を実施する。ひとつは「八十周年の歩み」の発刊、二つ目は五月二十五日(日)に「オアシス21」での大イベントの実施ということでした。そしてその為に三つ

の目標を設ける。一つは事務局と理事会の一致結束。二つに四七〇〇人会員の全員参加。三つ目にこれを機会に書道の魅力、書の意義、書的重要性を一般社会にアピールする』というもので、たいへん熱い開会の言葉でした。

続いて、桑名総合医療センター理事長、総括病院長の竹田寛様より「書道家はおのづから指の運動をし、美しい文字、詩などに接する機会が多いので、増々健康で長寿なさるでしょう。」と嬉しいお言葉を頂きました。

次にご来賓紹介のあと、本年度の日展特選、初入選者、日展東海展中日賞、読売新聞社賞、毎日会員賞受賞者の皆様紹介があり、樽本樹郎名誉副会長と、安藤滴水名誉副会長よりそれぞれ記念品が贈られました。本当におめでとうございました。

又本会常任顧問の黒田玄夏先生が「中日書道会と僕はほぼ同い年です。今年度の八十周年記念行事を大いに盛り上げましょう。」のお言葉で乾杯し、祝宴に入りました。

三八二名のご出席を頂き無事終えることが出来ましたこと、心より感謝申し上げます。



述べられる  
桑名総合医療センター  
理事長、総括病院長の  
竹田寛様



黒田玄夏常任顧問のご発声による乾杯

## 第六回理事会、評議員会開催

日時 平成二十六年二月十一日(火・祝)  
場所 名古屋観光ホテル

本年度第六回理事会が去る二月十一日に開催されました。理事全員の出席をうけて、鬼頭理事長の挨拶により始まり、二十六年度事業計画案・二十六年度予算案、資産管

理規定案、評議員及び正会員の承認、審査会員の承認等の議事について熱心にかつ慎重に審議が行われすべて承認されました。

理事会終了後、引き続き第一回評議員会が昨年と同様、本会の定款に従い理事会における決定事項の報告会という形で開催されました。

報告された事項は、二十六年度事業計画・二十六年度予算、評議員及び正会員の承認、審査会員の承認について、でした。



評議員会で挨拶される  
安藤滴水名誉副会長



理事に説明される鬼頭理事長

### 第六回理事会出席者

- 名誉副会長 伊藤 仙游 富田 栄栄
- 樽本 樹郎 上田 賦草 中野 玉英
- 安藤 滴水 大池 青岑 中村 立強
- 大島 緑水 平松 采桂
- 岡野 楠亭 松下 英風
- 岡本 苔泉 村瀬 俊彦
- 梶山 夏舟 山内 江鶴
- 加藤 矢舟 山際 雲峰
- 加藤 裕 尚麗 横山 夕葉
- 川崎 清石 工藤 俊朴
- 近藤 浩平 伊藤 暁嶺
- 近藤 俊夫 伊藤 英峰
- 佐藤 晴夫 山本 雅月
- 佐藤 慶雲 山本 雅月
- 武内 峰敏
- 青木 清濤
- 天野 白雲
- 理事 ●
- 副理事長 ●
- 松永 清石
- 関根 玉振
- 伊藤 昌石
- 理事長 ●
- 鬼頭 翔雲
- 監事 ●
- 伊藤 暁嶺
- 山本 雅月

# 「常任顧問伊藤天游先生を偲んで」

今田 紅 溪



謹んで常任顧問伊藤天游先生のご霊前に哀悼の意を表します。

一月十六日(木) 師匠伊藤天游先生の訃報のお知らせに、一瞬言葉を失いました。

昨年十二月に入院され、時々ご様子をお伺いして一喜一憂する日々が続きました。が、いずれ退院され戻られるものと信じておりました。以前はご指導が厳しく近寄り難い先生に感じましたが、この頃はとても柔和でよく冗談を言われ、皆で先生と共に笑い合ってた楽しかった思い出が次々と浮かびました。でもそれも二度と叶わぬ思い出になってしまいました。

天游先生の書は線が温かく柔和で伸びやかで、気韻生動の極みと思われました。十代から古典を学ばれ、その幅の広さは私達

には到底及ばない。鍛えられた七十余年の書業は、充実した作品に見事に反映されております。また生涯岐阜を愛し岐阜県の書の発展に大きく貢献され、郷土の詩・歌人の作品も多くお書きになられた先生のお心も、見習うべき事と存じます。

天游先生には本当に多くの事を教えて頂きました。技術的な事、精神的な事、しっかりと胸に刻み今後の糧と致します。私達門下生が先生のご期待になかなか添えず気を揉んでおられたことと思いますが、遠くからお見守り下さる先生に安心して頂けるように精進せねばと強く感じております。

通夜、葬儀の折には中日書道会の副会長安藤滴水先生、理事長鬼頭翔雲先生はじめ多くの先生方にご参列お見送り頂きましたこと、先生もさぞ喜びの事と存じます。

常に書業に重きを置かれた先生でしたが、これからはゆつくりとお休みいただきたく、心よりご冥福をお祈りいたします。

# 平成二十五年度講演会を開催して

研究部長 廣澤 凌 舟

二月十一日(火・祝) 名古屋観光ホテル「曙東の間」において平成二十五年度講演会を開催いたしました。

講師に三重大学学長、内田淳正先生をお迎えして「超高齢社会を楽しく生きるために」という演題でご講演をいただきました。医学博士でもある先生は骨軟部腫瘍、関節外科の権威であり、豪快で楽しいお人柄が伺える講演会となりました。



三重大学学長 内田淳正先生

豊富なデータをもとに工夫を凝らした画像とユーモア溢れたお話で会場は笑いの渦。参加者からは「元気が出ました。」「一時間笑えばなしでした。」「来年も是非参加したい。」「等、沢山の嬉しいお言葉をいただきました。」「好きな事を仕事にしている人は元気な人が多いという統計があります。皆さんは好きな書道をされているので、きつと健康でいられますよ。」「という先生の言葉に元気をいただきました。

最後になりましたが、ご多用中にも拘らずご講演いただきました内田先生に厚く御礼申し上げます。

## 講演会内容

日時 平成26年2月11日(火・祝)  
17:00~18:00  
場所 名古屋観光ホテル  
講演 三重大学学長 内田 淳 正 氏  
演題 「超高齢社会を  
楽しく生きるために」



講演会風景

平成二十五年 公益社団法人 中部日本書道会

第六回理事会を実施

日時 平成二十六年二月十一日(火・祝)
場所 名古屋観光ホテル

第六回理事会 議案書

平成二十五年 公益社団法人 中部日本書道会

第六回理事会 次 第

- 一、開会のことば
二、理事長あいさつ
三、議 事

- 第一号議案 平成二十六年度事業計画(案)に関する件
第二号議案 平成二十六年度予算(案)に関する件
第三号議案 資産管理規定(案)に関する件
第四号議案 評議員の承認に関する件
第五号議案 正会員の承認に関する件
第六号議案 審査会員の承認に関する件
四、閉会のことば

第一号議案 平成二十六年度事業計画(案) に関する件

I 書道普及振興事業(公益目的事業 1)

一 展覧会等の事業

本会は、出展作品の審査を行う公募展である中日書道展を企画運営することによって、従来より書道文化の普及発展に寄与していることは周知されていることである。加えて、初心者、若年層および地域の書道愛好家のために、これにふさわしい書道展の開催も必要不可欠である。そのために本会では、中日書きぞめ展、一宮支部学生展、半田支部学生書道展、西三河支部学生展を出展作品審査を行う公募展として開催する。

また、書道芸術の発展のためには、書の技量の上達だけでなく、書に関する幅広い教養の習得も必要である。このため、本会では、書道教育研究会、公開講座、講演会、研修会を実施する。

(1) 中部日本書道会創立八十周年記念 第六十四回中日書道展

会期 平成二十六年六月十日(六月二十九日)
会場 愛知県美術館・名古屋市民ギャラリー・栄・名古屋博物館

(2) 第六十五回中日書きぞめ展

会期 平成二十七年三月(予定)
会場 ナディアパーク アトリウム(予定)
中日支部学生書道展

(3) 第四十三回一宮支部学生書道展

会期 平成二十六年十一月二十二日(二十三日)
会場 一宮スポーツ文化センター
第五十回記念半田支部学童書道展
会期 平成二十六年七月
会場 半田市福祉文化会館(雁宿ホール)
第四十六回西三河学生書道展
会期 平成二十六年七月十一日(十三日)
会場 岡崎市美術館

(4) 第二十六回書道教育研修会

日時 平成二十六年十月十三日
会場 名古屋国際センター
第十八回公開講座

(5) 平成二十六年十一月三十日

日時 平成二十六年十一月三十日
会場 電気文化会館イベントホール
講演会

(6) 本部(二十七年二月)、一宮(二月)、半田(三月)、東三河(七月)、西三河(二月)、濃飛(七月)、岐阜(五月)

研修会・講習会
半田(十一月)、東三河(十月)、中南勢(十月)、岐阜(十一月)

(7) 福祉事業(公益目的事業 2)

本会では、従来より社会福祉法人への募金による社会事業への協力奉仕を行っている。引き

続き本年度も、会員のうち有志から募金を募り、中日新聞社会事業団および東海テレビ放送福祉文化事業団に寄付をおこなう。

- (1) 二〇一四年チャリティ愛の募金
―しあわせ薄い人々に愛の手を―
期間 平成二十六年十月(十二月)

III その他の事業(相互扶助等事業)

本会は、出展作品の審査を行わない公募展及び会員向け書道展として、書道展及び各支部において支部展・支部選抜展を行う。

支部においては、会員・一般市民向け講習会・講演会を行い支部会員の資質向上に努めている。

このほか、本会では会員の研鑽・資質向上のため、本部および各支部において記念事業、研究研修会、研修旅行を行う。

会員の福利厚生のために、必要とする事業を行う。

- (1) 出展作品の審査を行わない公募展及び会員向け展覧会
① 第二十三回寿書展
会期 平成二十六年十一月二十六日(三十日)
会場 電気文化会館
支部展・支部選抜展
第六十回一宮支部展
会期 平成二十六年十一月二十二日(二十三日)
会場 一宮スポーツ文化センター
第四十八回半田支部展
会期 平成二十六年九月
会場 半田市福祉文化会館(雁宿ホール)
第四十七回西三河支部会員
会期 平成二十七年二月十八日(二十三日)
会場 岡崎市美術館
東三河支部展
会期 平成二十六年七月一日(六日)
会場 豊橋市美術館
東三河支部選抜展
会期 平成二十七年二月三日(六日)
会場 豊橋市市民文化会館
濃飛支部展
会期 平成二十六年七月二十五日(二十七日)
会場 下呂市交流会館
北勢支部展
会期 平成二十六年七月十二日(十四日)

会場 四日市文化会館

第二十八回中南勢支部展

会期 平成二十七年一月

会場 三重県立美術館県民ギャラリー・岐阜支部展

会期 平成二十六年九月十二日(十四日)

会場 岐阜市市民会館

講演会 北勢(七月)、中南勢(十一月)

講習会 北勢(二月)

研究会 半田(四月)、西三河(三月)

研修会 本部(史跡探訪研修旅行他・時期未定)、一宮(十月)、西三河(十月)、濃飛(十月)、北勢(十一月)

福利厚生事業

① 塾総合保険

② 会員交流会

老人会色紙贈呈

半田支部においては、例年、地域(半田市・阿久比町・東浦町・武豊町・美浜町・南知多町)の老人会に対して色紙を贈呈して敬老の意を表している。

期日 平成二十六年八月

中部日本書道会創立八十周年記念事業

① 創立八十周年記念イベント
期日 平成二十六年五月二十五日

会場 オアシス21 銀河の広場

② 記念誌「八十周年の歩み」発行

社会福祉法人中日新聞社会事業団および社会福祉法人東海テレビ福祉文化事業団以外への寄付

その他各種事業

① 書道に関する調査研究および発表

② 書道教育者の推薦書および看板の交付

③ 外国研修旅行補助

④ 組織拡大事業

・ 会員章(門章・襟章)の交付

・ 会員名簿の発行

⑤ 広報活動事業

・ 中日会報・支部会報の発行

・ ホームページによる情報提供

⑥ 資料文献収集保存事業

⑦ 書道功労者等顕彰事業

⑧ その他



科 目	26年度 予算額(A) 円	25年度 予算額(B) 円	増 減 (A)-(B) 円	説 明
② 支 出				
1 支 事 務 所 費 用 等	2,041,000	1,575,000	466,000	支部事務所費含む
2 支 事 務 所 費 用 等	207,000	250,000	△43,000	
3 支 事 務 所 費 用 等	104,000	100,000	4,000	
4 支 事 務 所 費 用 等	413,000	400,000	13,000	
5 支 事 務 所 費 用 等	2,606,000	5,488,000	△2,882,000	職員給与・賞与
6 支 事 務 所 費 用 等	1,600,000	0	1,600,000	臨時職員
7 支 事 務 所 費 用 等	200,000	200,000	0	
8 支 事 務 所 費 用 等	1,705,000	1,475,000	230,000	
9 支 事 務 所 費 用 等	60,000	65,000	△5,000	
10 支 事 務 所 費 用 等	894,000	789,000	105,000	税理士・司法書士等
11 支 事 務 所 費 用 等	2,984,000	1,855,000	1,129,000	支部賞品代・記念品代
12 支 事 務 所 費 用 等	2,390,000	3,171,000	△781,000	慶弔等
13 支 事 務 所 費 用 等	581,000	597,000	△16,000	
14 支 事 務 所 費 用 等	8,411,000	9,478,000	△1,067,000	会報、会員名簿発行はナシ
15 支 事 務 所 費 用 等	468,000	605,000	△137,000	本部事務所電気、冷暖房
16 支 事 務 所 費 用 等	2,953,000	3,130,000	△177,000	電話、郵送料等
17 支 事 務 所 費 用 等	10,132	22,474	△12,342	
18 支 事 務 所 費 用 等	400,000	540,000	△140,000	
19 支 事 務 所 費 用 等	6,646,000	6,400,000	246,000	本部事務所
20 支 事 務 所 費 用 等	1,627,000	1,599,000	28,000	リ・文料等
21 支 事 務 所 費 用 等	0	983,000	△983,000	旅費交通費へ移動
22 支 事 務 所 費 用 等	50,000	50,000	0	市県民税
23 支 事 務 所 費 用 等	236,000	226,000	10,000	諸会費
24 支 事 務 所 費 用 等	1,585,000	290,000	1,295,000	総会等看板、派遣社員
25 支 事 務 所 費 用 等	30,000	30,000	0	職員社会保険、雇用保険
26 支 事 務 所 費 用 等	400,000	960,000	△560,000	支部幹部会
27 支 事 務 所 費 用 等	37,000	37,000	0	管理費目別内訳参照
28 支 事 務 所 費 用 等	38,876,132	40,298,474	△1,422,342	
計	143,077,432	131,094,474	△11,982,958	
増 減	-14,378,932	-381,974	△13,996,958	
II 投資活動収支の部				
1 特 定 資 産 取 得 支 出				
1 本部80周年記念事業費	2,000,000	0	2,000,000	資産取崩
2 名簿費引当金取崩	8,500,000	0	8,500,000	本部80周年
3 名簿費引当金取崩	1,000,000	1,000,000	0	25・26年度用
4 支 部 記 念 事 業 費 取 崩	1,000,000	400,000	600,000	一宮60周年
計	11,500,000	1,400,000	10,100,000	
2 活 動 支 出				
1 特 定 資 産 取 得 支 出				
1 持 退 職 給 付 引 当 金 取 崩	72,000	144,000	△72,000	資産積立
2 本部80周年記念事業費	0	400,000	△400,000	(平成26年)
3 本部80周年記念事業費	300,000	0	300,000	(平成36年)
4 設備拡充資金積立金	50,000	0	50,000	
5 支部記念事業積立金	80,000	130,000	△50,000	半田 北勢
6 名簿費引当金	500,000	0	500,000	27・28年度用
計	0	0	0	10万円以上備品
2 固 定 資 産 取 得 支 出				
1 什器備品取得支出	1,002,000	724,000	278,000	
計	10,498,000	676,000	9,822,000	
III 財務活動収支の部				
1 財 務 活 動 収 入				
1 借入金	0	0	0	
2 返済	0	0	0	
計	0	0	0	
2 財 務 活 動 支 出				
1 借入金	300,000	300,000	0	
2 返済	4,180,932	5,974	△4,174,958	
計	4,480,932	3,274	△4,477,658	
当 期 繰 越 収 支 差 額	8,950,142	8,956,116	△5,974	
前 期 繰 越 収 支 差 額	4,769,210	8,950,142	△4,180,932	
次 期 繰 越 収 支 差 額				

(注) この収支予算書は「公益法人会計における内部管理事項について」(平成17年3月23日公益法人等の指導監督等に關する関係省庁連絡会議幹事会申合せ)の記載の形式によっている。

備 考	26年度予算	25年度予算	増 減	説 明
中日展収入内訳				
1 審査員以上出品料	15,050,000	14,280,000	770,000	14000円×1075点
2 依囑・無鑑査出品料	12,120,000	12,180,000	△60,000	12000円×1010点
3 一科出品料	9,000,000	9,720,000	△720,000	9000円×1000点
4 二科出品料	5,950,000	7,350,000	△1,400,000	7000円×850点
5 若年層出品料	2,750,000	2,750,000	0	5000円×550点
6 入賞目録	255,000	240,000	15,000	300円×850名
7 社中広告料	50,000	50,000	0	200円×250部
8 社中広告料	1,800,000	1,800,000	0	40000円×45件
9 協賛店広告料	910,000	910,000	0	35000円×26件
計	47,885,000	49,280,000	△1,395,000	
事業別内訳				
1 寿喜展費	1,190,000	1,149,000	41,000	
2 講演会費	901,000	909,000	△8,000	支部は支部別内訳参照
3 支部講習会費	295,000	295,000	0	支部別内訳参照
4 支部研究会費	185,300	154,000	31,300	支部別内訳参照
5 支部選抜展費	2,613,000	2,857,000	△244,000	支部別内訳参照
6 支部学生展費	300,000	300,000	0	支部別内訳参照
7 支部展費	6,333,000	6,091,000	242,000	支部別内訳参照
8 色紙展費	4,602,000	4,334,000	268,000	支部別内訳参照
9 書道教育研修費	133,000	137,000	△4,000	支部別内訳参照
10 外国研修補助費	772,000	764,000	8,000	
11 功労者等顕彰費	100,000	100,000	0	
12 書道教育者養成費	335,000	330,000	5,000	教室看板
13 塾総合保険事業費	366,000	362,000	4,000	
14 奨励探訪費	1,105,000	1,075,000	30,000	企画委員会
15 書道普及事業費	2,747,000	2,747,000	0	
16 書道振興事業費	300,000	4,425,000	△4,125,000	
17 80周年記念事業費	15,509,000	300,000	15,209,000	本部、一宮
18 調査研究費	747,000	288,000	479,000	サ・ト・運管
19 資料収集費	30,000	30,000	0	リニューアル
20 資料収集費	60,000	60,000	0	
21 中日展費	655,000	644,000	11,000	
22 中日展費	35,212,000	33,369,000	1,843,000	
23 中日書きぞめ展費	6,027,000	5,982,000	45,000	
24 愛の募金費	4,326,000	4,313,000	13,000	
25 本部祝賀会費	631,000	605,000	26,000	
26 本部祝賀会費	16,500,000	15,800,000	700,000	
27 支部祝賀会費	2,556,000	3,296,000	△740,000	支部別内訳参照
28 計	104,201,300	90,796,000	13,405,300	
管理費目別内訳				
1 会議費	4,951,000	3,830,000	1,121,000	
(1) 6月総会	1,989,000	2,305,000	△316,000	
(2) 5月理事・評議員会	1,243,000	593,000	650,000	
(3) 2月理事・評議員会	1,719,000	932,000	787,000	
2 事務局費	22,069,132	22,710,474	△641,342	
3 支部事務所費	4,522,000	4,557,000	△35,000	支部別一覽参照
4 慶弔費	410,000	381,000	29,000	見舞金等
5 会報費	6,900,000	7,055,000	△155,000	年4回発行
6 名簿費	24,000	1,765,000	△1,741,000	発行ナシ
計	38,876,132	40,298,474	△1,422,342	
事業及び管理合計	143,077,432	131,094,474	11,982,958	



第三号議案 資産管理規定(案)に関する件

(目的及び意義)

第一条 この規定は、公益社団法人中部日本書道会(以下「この法人」という。)の資産管理に關し必要な事項を定めることを目的とする。

(基本財産への繰り入れ・取り崩し)

第二条 この法人は、定款第33条により、理事会において、基本財産以外の資産を基本財産に繰り入れることができる。

2 この法人は、理事会において、基本財産を基本財産以外の資産として取り崩すことができる。

3 この法人は、理事会において、基本財産を処分することができる。

(特定資産への繰り入れ・取り崩し)

第三条 特定資産とは、この法人が公益目的に使用すると定めた資産である。

2 資産取得資金とは、特定資産のうち、特定の資産の取得又は改良に充てるため、この法人の任意で積み立てる資金である。

3 この法人は、理事会において、特定資産以外の資産を特定資産に繰り入れることができる。

4 この法人は、理事会において、特定資産を特定資産以外の資産として取り崩すことができる。

5 この法人は、理事会において、特定資産を処分することができる。

(改廢)

第四条 この規程の改廢は、理事会の決議を経て行う。

附則

この規程は、平成二十六年二月十一日から施行する。

平成二十五年度 第六回理事会 承認事項 新審査委員会・新正会員の承認

審査委員の承認に関する件

公益社団法人中部日本書道会展覧会開催規定 第九条の規定により、下記の者を審査委員としての委嘱の承認を求めらる。

この承認は平成二十六年四月一日付けとする。

二科審査委員会

第一部

青山 華塘

荒川 祥鶯

石井 瑞鶴

井村 耕心

落合 玉泉

金澤 秀鴛

亀井 杏華

草野 慧泉

額 卓葉

白須賀香園

杉浦 昇旭

竹内 由美

土屋 春聲

角田 紫苑

富田 青邑

外山 悠汀

西村 玲舟

西村 松花

野々垣清城

日比野寿翠

松田 雅風

松平 翠泉

水野 清花

水野 朋香

村井 香仙

森本 夏溪

安田 玄遠

箭野 翠風

若山 峰濃

鷺津 岱嶺

(三二名)

第二部

朝岡 伸

近藤 由果

新保 美月

菅沼 柏葉

鈴木 稲水

野口紀代子

平野 仁子

(七名)

第四部

鶴飼 冠山

築山 美香

浜田 翠雲

(二名)

第五部

近藤 雲洋

丹羽 裕

(二名)

第三部

植田 錦舟

太田 浄泉

國府谷妙仔

鈴木 功子

鈴木 凍山

鈴木 美月

平岡 妙紅

堀田 恵香

宮間 秀子

森 雪華

森下喜久子

(二一名)

岩田 沙杏

上杉真里佳

上本 松翠

上山 翠芳

宇野安理沙

大鐘智美未

大須賀恵峰

太田 素月

大西 紅邑

大野 勝子

大村 小華

小川 暉翠

小川 秀苑

奥村 幸苑

奥村 春扇

長田 和記

加藤 脩平

加藤 祥華

加藤 芳司

川本 晴美

川本 柚香

北村 翠蓉

木下 恵香

木村 瓊鐘

久野 哲史

久野 美扇

栗田 萌翠

黒田 汀苑

小坂 春艸

兒島 麻乃

古園井美凜

後藤 智明

後藤 真希

後藤 蘭徑

後藤 柳月

近藤 翠篁

近藤 瑛月

近藤 珠翠

近藤 峻岳

坂井 彩乃

佐藤 史織

澤田 志峰

杉森 亮子

鈴木 溪聲

関 春香

高津 径花

田口 麻衣

堀 怜泉

堀 美洲

堀 翠苑

古川 五峰

古川 秀鍊

小島 春美

小戸森麻利子

小谷津千津子

佐合 智美

佐藤 典子

堀脇 明代

堀脇 精華

山口 香峰

横溝 憲吾

(二五名)

第四部

成田 尚子

西脇 聖園

波賀野幸子

伴 幸子

古橋 里子

松田 典子

森 則子

山口 晶子

吉田 嶺雪

林 麗清

原 安周

半谷 恵

平田美津子

福山 恵山

船橋 幽泉

古川 五峰

秀鍊

小島 春美

金倉あゆみ

加藤 典子

大野 満子

大野 紀子

竹内左織里

武川 桃徑

西川 万央

林 恵雪

林 孝湖

原 彩霞

平田 遥菜

星 智子

佐藤 明代

堀脇 精華

山口 香峰

横溝 憲吾

(二五名)

第五部

岡島 美紀

黒柳 真実

白井 初音

林 寿江

峯村 榮子

武藤 香紗

村岡喜代美

矢藤 巧真

米田 清翠

稲吉小夜子

上野 明美

大須賀孝子

大野 紀子

大野 満子

加藤 典子

金倉あゆみ

小島 春美

小戸森麻利子

小谷津千津子

佐合 智美

佐藤 典子

堀脇 明代

堀脇 精華

山口 香峰

横溝 憲吾

(二五名)

第六部

成田 尚子

西脇 聖園

波賀野幸子

伴 幸子

古橋 里子

松田 典子

森 則子

山口 晶子

吉田 嶺雪

浅井 晨光

石田 昌子

稲葉 裕美

伊吹 伴子

今村 古雅

小川 裕子

乙部 光代

城殿 天祐

合木 友理

小藤 芳園

柴田 瑞香

高田 李華

竹内左織里

武川 桃徑

西川 万央

林 恵雪

林 孝湖

原 彩霞

平田 遥菜

星 智子

堀脇 明代

堀脇 精華

山口 香峰

横溝 憲吾

(二五名)

第七部

成田 尚子

西脇 聖園

波賀野幸子

伴 幸子

古橋 里子

松田 典子

森 則子

山口 晶子

吉田 嶺雪

浅井 晨光

石田 昌子

稲葉 裕美

伊吹 伴子

今村 古雅

小川 裕子

乙部 光代

城殿 天祐

合木 友理

小林 玄潮

正会員の承認に関する件

公益社団法人中部日本書道会定款第五条第一号の規定により、下記の者を正会員としての承認を求めらる。

この承認は平成二十六年四月一日付けとする。

第一部

青山 芳翰

阿知和泰山

安藤 翠昂

井内 溪舟

池山 博水

市岡 敬華

伊藤 賦美

稲垣 美鳳

稲本 秀嶺

今井 芳紅

岩田 永慎

第二部

浅野 萤雪

安達 啓子

磯部ユリ子

板倉 恵子

第三部

浅井 晨光

石田 昌子

稲葉 裕美

伊吹 伴子

第五部

青山 成光

伊澤美紀子

塩谷 華舟

加藤 忠之

小池 理一

第六部

鈴木理恵子

神山 彩華

村瀬 幸一

(八名)

# 第六十四回中日書道展運営委員会を開催

第一事業部長 伊藤 仙游

桜も満開の四月六日(日)午後五時よりキャッスルプラザホテルに於いて、第六十四回中日書道展運営委員会が開催されました。

青木清濤総務部長の司会により開会、理事長鬼頭翔雲先生より、「中部日本書道会

八十周年の記念展でもあり、昨年にも増して多数のご出品、ご協力をお願いしたい。」

等のご挨拶を頂きました。副会長・常任顧問のご紹介、各部副部長のご紹介、ご出席

の協賛会員のご紹介を、伊藤昌石副理事長兼事務局長より頂き、第一事業部長伊藤仙

游の第六十四回展日程等の説明へと進みました。本日愛知県美術館との打ち合わせが

あり、搬入時間の確定、二科審査会員の出品時期などが連絡されました。この後各部

に分かれて協議が行われ、本年度より担当部の変わる方もあり質疑など活発に行われ

ました。

創立八十周年記念事業として、愛知県美

術館会場での席上揮毫や、オアシスでのイベントで、一般参加者に揮毫して頂いた作品を展示するなどの計画もありますので、多数のご出品と大勢の方にご観覧頂けますよう皆様方の絶大なご協力をお願い申し上げます。

この後小島瑞柳厚生部長の司会により、名誉副会長安藤滴水先生から「満開の桜の

ように、中日書道展に多数の出品をお願いしたい」旨のご挨拶を頂き、常任顧問土屋

陽山先生の乾杯のご発声により懇談会となりました。あちこちで談笑が広がり和気

藹々の空気の中、創立八十周年記念第六十四回中日書道展の成功を祈りつつ閉会となりました。ご参加頂いた先生方には、ご多

忙の中ご参集頂きましてありがとうございます。

第六十四回中日書道展の日程は、もう目前に迫っております。皆様方のご協力を重ねてお願い申し上げます。

## 中部日本書道会創立八十周年記念 第六十四回 中日書道展 日程表

四月十四日	月	書類(取扱店へ)	
十八日	金	書類搬入(業者) 本部へ	受付 午前十時～十一時半 作業 午後三時まで
愛知県産業労働センター			
五月 九日	金	二科審・依嘱・無鑑査・一科・二科裏打ち作品搬入	午前九時～午後五時
十日	土	二科・鑑審査	午前九時～午後五時
十一日	日	一科・鑑審査	午前九時～午後五時
十二日	月	特別賞選考(二科審・依嘱・無鑑査) 裏打ち作品搬出	午前九時～午後三時 午後四時～午後六時
名古屋市民ギャラリー栄			
六月 九日	月	無鑑査(一部)(中日賞・桜花賞は県美に展示)	搬入 午後一時～午後五時 陳列
十日	火	展覧会役員作品展示	午前九時半～午後六時
十一日	水	〃	午前九時半～午後六時
十二日	木	〃	午前九時半～午後六時
十三日	金	〃	午前九時半～午後六時
十四日	土	〃	午前九時半～午後六時
十五日	日	〃	搬出 午後四時～午後六時
愛知県美術館ギャラリー			
六月 十日	火	審査顧問・特別出品・一科審査会員・二科審査会員・依嘱(二部・五部)・無鑑査(二部・五部)(二部・五部・八十周年記念賞・海部俊樹賞・大賞・準大賞・中日賞・桜花賞を含む)	搬入 午後一時～午後六時 陳列
十一日	水	展覧会役員作品展示	午前十時～午後六時
十二日	木	〃	午前十時～午後六時
十三日	金	〃	午前十時～午後八時
十四日	土	〃	午前十時～午後六時
十五日	日	〃	搬出 午後四時～午後六時
名古屋市博物館			
六月 十六日	月	一科搬入・陳列	搬入 午後二時～午後五時 陳列
十七日	火	一科展覧会	午前九時半～午後五時
十八日	水	〃	午前九時半～午後五時
十九日	木	〃	午前九時半～午後五時
二十日	金	〃	午前九時半～午後五時
二十一日	土	〃	午前九時半～午後五時
二十二日	日	〃	午前九時半～午後五時
二十三日	月	休館日	午前九時半～午後五時
二十四日	火	一科搬出・二科搬入	一科搬出 午前九時半～正午 二科搬入 午後二時～午後五時
二十五日	水	二科陳列	陳列 午前九時半～午後五時
二十六日	木	二科展覧会	午前九時半～午後五時
二十七日	金	〃	午前九時半～午後五時
二十八日	土	〃	午前九時半～午後五時
二十九日	日	〃	搬出 午後三時～午後五時

※授賞式・祝賀会 六月十五日(日) ウェスティンナゴヤキャスル(予定)

### 国外旅行研修補助制度のご案内

本会では、会員（準会員・正会員）が、視野を広め、見識を高め、教養の向上をはかることを目的に外国旅行をする場合、その費用の一部を補助する制度があります。

#### ①補助の対象者

会員期間が満十年以上の者とする。

#### ②補助金額

旅行先及び旅行日程にかかわらず二万円とする。

#### ③補助回数

会員期間中一回とする。

#### ④申請等の手続き

申請  
補助を受けようとする場合は、外国研修旅行補助申請書を提出する。

#### ・申込期日

原則として旅行予定日の一ヶ月前までに提出する。

#### ・旅行の変更

旅行の予定変更又は中止の場合は、直ちに外国研修旅行変更（中止）届を提出する。

#### ・添付書類

旅行費用を払い込んだ会員は、申請書に受領書（旅行先・日程等明記）又はその写しを添付する。

#### ・補助金の交付

申請書を審査し、適格者に対して銀行振込により交付する。

#### ・事後報告

旅行を終了した会員は、速やかに外国研修旅行終了報告書を提出する。

#### ⑤補助金の返還

補助金を交付した後に、旅行中止の場合は、補助金は変換させるものとする。

会員の皆様は、この補助制度を大いに利用して下さい。

担当 総務部

### 塾総合保険のご案内

会員各位におかれましては、平素より書道芸術の高揚および、書道教育の振興普及に専心されておられることと、推察いたしております。

さて、書道教育普及のためにご指導いただいている先生方に、塾生の万一の時に備えて塾総合保険への加入をおすすめ致します。

この保険は本会と保険会社が直接契約しているものであるため、少人数での加入ができ、一人年額一二〇円程で大きな保障が得られます。保険期間は十月一日から翌年十月一日までとなり、年度途中での加入の場合は加入日より二十六年十月一日までとなります。

すでに加入中の先生方には八月中旬に書類をお送りいたしますので、お忘れのないよう契約更新をお願いします。

尚資料請求、又は新規お申し込みの方は、本部までご連絡下さい。

担当 厚生部

### 書道教室推薦看板申請制度のご案内

本会では、書の勉強を希望する人々のために、また書道の優れた指導者を、広く一般の人々に紹介することを目的として書道教室等の推薦制度を実施いたしております。

この制度は、書道教室を経営する会員の先生方を側面よりバックアップするもので、教室または指導者に対して推薦証と推薦看板をひと組として、希望される会員に有料で交付するものがあります。（左記参照）

交付にあたっては、この制度の内容から、誰にでも無条件というわけにはまいりません。

資格者は本会の正会員です。ただし、準会員の方は、中日展に出品されている方及び本会が主催する書道教育研修会を受講された方に限ります。

申請書は本部へご請求下さい

記

○書道教室推薦証等交付申請書 一通

（申請書は本部へご請求下さい）

○推薦証（別記）

○推薦看板（写真）

○アクリル製、巾15cm×長さ60cm、指導者名を記入いたします。

○申込資格

本会正会員及び選考会で認められた準会員

○推薦手数料 二五、〇〇〇円

（承認後ご連絡いたしますので振替用紙にてお振込み下さい。）

担当 教育部

公益社団法人

### 中部日本書道会推薦教室

指導者 ●●●●●

第●●●号

### 推薦証

右の者は書道並びに書写教育の優れた指導者として認められるのでここに推薦する

平成 年 月 日

公益社団法人 中部日本書道会

第 号

※このページに関する質問等は本部事務局迄連絡下さい。

### 中部日本書道会書道教室 推薦証等交付申請書

平成 年 月 日

公益社団法人 中部日本書道会理事長 殿

申請者 住所 氏名 (姓名) (電話番号 - - )

下記の通り書道教室等の推薦を受けたいので、手数料を添えて申請します。

教室名	
教室住所	〒
ふりがな	
指導者名 (申請者名)	中日書道展格 資
備考	

(注) 指導者の書歴は裏面のとおりで

受付年月日 平成 年 月 日  
交付年月日 平成 年 月 日  
交付番号

# 第64回 中日書きぞめ展

## 出品点数 16,531点

会期 平成26年3月22日(土)・23日(日) 会場 ナディアパーク 2階 アトリウム

授賞式 日時 平成26年3月23日(日) 午後2時  
会場 ナディアパーク 3階 デザインホール

応募点数…………… 16,531点

### 入賞数

- |                    |                   |
|--------------------|-------------------|
| 文部科学大臣賞…………… 1名    | 中日書道会賞…………… 10名   |
| 愛知県知事賞…………… 3名     | 中日新聞社賞…………… 20名   |
| 岐阜県知事賞…………… 3名     | 東海テレビ放送賞…………… 10名 |
| 三重県知事賞…………… 3名     | 中部日本放送賞…………… 10名  |
| 名古屋市長賞…………… 3名     | 名誉会長賞…………… 100名   |
| 愛知県教育委員会賞…………… 3名  | 理事長賞…………… 119名    |
| 岐阜県教育委員会賞…………… 3名  | 推薦…………… 369名      |
| 三重県教育委員会賞…………… 3名  | 奨励賞…………… 720名     |
| 名古屋市教育委員会賞…………… 3名 | 特選…………… 1,271名    |
|                    | 準特選…………… 4,938名   |
|                    | 秀逸…………… 4,156名    |
|                    | 佳作…………… 3,263名    |
|                    | 入選…………… 1,520名    |

### 団体賞

- |     |     |
|-----|-----|
| 第1位 | 牛刀会 |
| 第2位 | 童友会 |
| 第3位 | 書玄会 |
| 第4位 | 墨游会 |
| 第5位 | 牧書会 |



会場風景

## 第六十四回 中日書きぞめ展入賞者

〈審査〉

平成二十六年二月一日(土)、本部に於いて四十名の審査員によって厳正に審査され、入賞・入選者が決まりました。

### 文部科学大臣賞受賞作品



## 文部科学大臣賞を受賞して

高二 安藤 愛理



この度は第六十四回中日書きぞめ展におきまして栄えある文部科学大臣賞をいただき、誠にありがとうございます。これも柴田瑞雪先生の温かく丁寧なご指導のおかげであるとたいへん感謝しております。

私は高校一年生の時、一年間オーストラリアへ留学

をしていました。技量を維持するため、留学中も日本から持って行った書道用具を使い、定期的に練習を続けました。その際、書道は現地の人々と私とを繋ぐ架け橋となりました。書道という魅力的な日本文化を伝えることは私にとっても奥深さを改めて感じさせるきっかけとなりました。

今回の作品は留学から帰ってきた時に取り組むことを決意したものです。最初は字に強弱さがなく弱しくなっていましたので、豪胆に書くように心がけました。

これからも一層努力をし、書き続けていきたいと思っておりますのでご指導よろしく願います。



書きぞめ展上位入賞者

文部科学大臣賞

高校二年 安藤 愛理

小学四年 溝口 絵梨

愛知県知事賞

高校一年 石黒明日香

高校三年 鈴木 誠人

中学一年 佐藤 千晴

小学六年 佐野明日香

岐阜県知事賞

中学二年 奥村 和

高校二年 宇野英里香

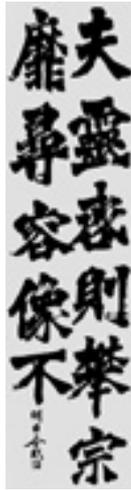
小学五年 後藤 拓真

小学三年 小林 蒼依

愛知県知事賞

高 一 石黒明日香

高 一 石黒明日香



愛知県知事賞

中 一 佐藤 千晴

中 一 佐藤 千晴



愛知県知事賞

小 五 後藤 拓真

小 五 後藤 拓真



岐阜県知事賞

中 三 奥村 和

中 三 奥村 和



岐阜県知事賞

中 二 深谷 侑以

中 二 深谷 侑以



愛知県教育委員会賞

高校三年 山田 桃子

高校三年 小宮山 慧

中学三年 山田真悠子

小学一年 鈴木新之介

小学六年 西野ちなせ

小学六年 安藤 萌梨

岐阜県教育委員会賞

高校一年 小田 亜希

高校二年 杉本賢士朗

中学三年 会田 遥奈

高校一年 小栗圭太郎

小学四年 水野 風紗

中学三年 松坂 歩実

三重県教育委員会賞

中学二年 井谷 絢菜

中学二年 高尾萌々乃

小学一年 後藤 花梨

小学一年 安田 紀保

小学二年 市橋 歩大

小学六年 鈴木 礼登



三重県知事賞

高 三 鈴木 誠人

高 三 鈴木 誠人



三重県知事賞

小 六 佐野明日香

小 六 佐野明日香



三重県知事賞

小 三 小林 蒼依

小 三 小林 蒼依



中日新聞社賞

高校二年 新居真由香

高校三年 生田ひかる

高校一年 深谷 麻実

大畑 諒真

熊崎 千佳

木下 菜帆

西原 希美

柴田 祐美

池田美菜子

杉浦 里佳

嶋田 雅

長縄みさき

土居 真生

石黒 優香

宮田 青依

片野 美帆

市川 真名

川口 明里

鶴口 夏菜

高畑 美里

松原 佐和

藤井なつみ

今井 大地

山本 香澄

濱口 舞

和田万里奈

柴田 真衣

赤松 里香

柘植あゆみ

安藤 雅

佐藤 菜保

池田 朋華

鈴木 望

稲田 真生

早野 百香

加藤 優奈

南川 千佳

川島 美咲

小川 千尋

川尻 真彩

中村南名子

川尻 真彩

西畑 茉夏

中神 優奈

東海テレビ放送賞

堀田奈菜恵

南川 千佳

小川 千尋

中村南名子

西畑 茉夏

廣川 瑞樹

名譽会長賞

○高校三年 生田ひかる

大畑 諒真

木下 菜帆

柴田 祐美

杉浦 里佳

熊澤 洗平

小嶋日向子

○高校二年 小山 結衣

石黒 優香

片野 美帆

川口 明里

高畑 美里

藤井なつみ

山本 香澄

和田万里奈

赤松 里香

安藤 雅

池田 朋華

稲田 真生

加藤 優奈

川島 美咲

中神 優奈

○中学二年

都築 祐賀

夏目みのり

石原 稜子

岩津 美優

大島 優里

熊澤 洗平

吉戸 菜月

○小学四年

小島 花佳

小林 あや

浮貝 将成

大里 柚

小川 さくら

重本 真愛

○小学三年

安藤 光里

王 千蕙

清水 麻緒

鈴木 紀子

鈴木 悠里

和 田 朗頼

若山 千春

○小学六年

伊藤 優花

尾之内美月

金野 信之

川井 真歩

紀平 幹太

近藤 海生

棚橋 史佳

内藤 佑騎

中野 聖菜

永家 汐菜

藤田 小夏

正木康大朗

○小学五年

荒井 裕貴

伊藤 彩乃

岩間 美輝

大野 楓華

酒井 莉子

長坂 菜奈

野田 夏鈴

橋本 朋香

水井彩陽香

○小学四年

池田 奈央

伊藤 志歩

掛水 美奈

渡辺ひなた

山田 奈央

森 采音

前田 由稀

弘中 美彬

竹内 奏絵

中津 摩耶

野村 祐衣

博多 祐万

後藤菜の子

山崎 珠

菅野 茜

寺井 萌未

福田 梨乃

湯脇 絵理

渡邊ほのか

坂下真菜恵

田中 美有

菊川 華

○小学二年

高 殿 葉月

吉川 綾華

岡 大樹

竹川 美歌

伊藤有珠沙

坂下真菜恵

田中 美有

菊川 華

吉田 多映

杉江 凜哉

小学二年

小学五年

小学一年

小学二年

小学三年

小学四年

小学五年

小学六年

小学一年

小学二年

小学三年

小学四年

名古屋市長賞 高二 宇野英里香  
 魂は才女自天淵吐けし國之如瑞中書務兼  
 老止批妙門頂戴保卷少不修序と冷心信  
 者撰作命精筆は巻紙に心正に書きしは  
 在りて其書一二年に於ては其書は其書に  
 在りて其書一二年に於ては其書は其書に

名古屋市長賞 中二 水野 百花  
 満堂佳気陽春  
 十二 水野 百花

名古屋市長賞 小五 内田 菜月  
 平和な国  
 五 内田 菜月

愛知県教育委員会賞 高三 山田 桃子  
 榮茂春葩逆抱獨  
 秀蘭襟鼓額  
 三 山田 桃子

愛知県教育委員会賞 中三 山田真悠子  
 不斷の努力  
 三 山田真悠子

愛知県教育委員会賞 小六 西野ちなせ  
 霊峰富士  
 六 西野ちなせ

岐阜県教育委員会賞 高一 小田 亜希  
 非有を争い別羅浮は花を身  
 不易備且而負於松下五龍河  
 雲閣浩嘆秋中五日五日布

岐阜県教育委員会賞 中三 会田 遥奈  
 天地四望春  
 中三 会田 遥奈

岐阜県教育委員会賞 小四 水野 風紗  
 美しい空  
 四 水野 風紗

三重県教育委員会賞 中二 井谷 絢菜  
 雪光る富士  
 二 井谷 絢菜

三重県教育委員会賞 中一 後藤 花梨  
 夜空流星  
 一 後藤 花梨

三重県教育委員会賞 小二 市橋 歩大  
 なかよし  
 二 市橋 歩大

名古屋市教育局賞 高三 小宮 山慧  
 年々望むべきは学業の進歩に在りて  
 同様に学業の進歩に在りて  
 同様に学業の進歩に在りて

名古屋市教育局賞 中一 鈴木新之介  
 伝統芸術  
 一 鈴木新之介

名古屋市教育局賞 小六 安藤 萌梨  
 夢と希望  
 六 安藤 萌梨

中日書道会賞 高二 杉本賢士朗  
 夫靈跡誌遊必  
 表先大之迹

- 小学三年 池田 めい 遠藤 昂晶 佐藤 七香 稲垣 彩乃 荒川 遥菜  
 ○小学二年 太田 美住 小川 真里奈 篠田 優依 安藤 裕基  
 坂枝 桜 亀村 孝晃 柴田 萌里 池田 龍之介  
 倉知 桃子 清水 柚衣 小川 菜月 犬飼 裕貴  
 近藤 奈月 鈴木 ことか 勝川 美咲 植田 公輔  
 松本 十和 酒井 恵梨香 瀬之上 恭加 河合 麻奈 岡田 一輝  
 松久 陽太 島田 亮子 田中 もえ 川口 実咲 小本 曾 杏  
 宮川 詩唯 田淵 芽子 田辺 明里 桑山 有俊 葛西 真由 小本 曾 杏  
 柳詰 和里 柘植 結菜 戸川 七海 甲山 莉子 神谷 優奈 葛西 真由 小本 曾 杏  
 磯部 康介 仲 菜里 利川 友愛歌 遠藤 彩乃 北尾 美樹 美樹 翔来  
 栗林 佑 服部 美鈴 中村 寧々 長屋 桂太 杉山 詢子 幸野 朱里 櫻井 愛子  
 田中 咲衣 前川 紗於里 西嶋 佳那子 西野 紗菜美 蛭川 真由 鈴木 千尋 櫻井 愛子  
 花井 里帆 松岡 由莉 村井 見名 野村 梨乃 瀧 千尋 櫻井 愛子  
 山口 真由 村井 見名 野村 梨乃 瀧 千尋 櫻井 愛子  
 ○高校二年 石井 千香子 山本 彩織 橋本 真奈 谷 春花 佐藤 寿真  
 小野木 洗介 吉川 由里子 早川 莉沙 長尾 康平 山下 侑子 矢永 晴菜  
 川井 美早紀 秋田 海音 舟橋 春香 中嶋 果純 山田 菜摘 山田 大斗  
 河田 みなみ 戸本 好美 荒川 公寛 細川 聡子 長瀬 爽純 山田 菜摘 山田 大斗  
 仲井 莉加 飯沼 真穂 前川 優平 中津 遼香 谷口 愛華 若原 彩香  
 中村 ゆとり 中村 ゆとり 幾世 真由 宮田 菜々 西嶋 望来 谷口 愛華 若原 彩香  
 山 明美 羽根田 菜摘 市川 みずほ 村上 実野 野口 彩希 樽本 芹 若原 彩香  
 原野 佳子 井上 文佳 村上 裕梨 福山 歩美 坪井 百花 寺本 和香菜  
 日比 実里 岩間 早紀 初山 可歩 安江 風沙 八野 井 幸 中野 萌々 石倉 実桜  
 深谷 紗央里 藤岡 友理 大城 美佑 落合 輝 加藤 かれん 吉川 賢伸 森 上史絵良 根谷 川琴音  
 藤原 小与 加藤 菜奈 加納 詩那 吉田 実加 山内 菜摘 原 莉緒 藤野 真奈  
 細井 麻由 水谷 友貴奈 水野 佐和子 河本 菜々 桐山 彩華 久保 さえ香 青島 由実 渡部 美涼 松田 真由  
 水野 佐和子 河本 菜々 桐山 彩華 久保 さえ香 青島 由実 渡部 美涼 松田 真由  
 米山 くるみ 若杉 恰華 小芝 那奈 小林 郁璃 近藤 ひなの 足立 暁史 石黒 達也 川上 莉果  
 猪本 奈那 坂井 梨紗 伊藤 千珠 森 愛華 川崎 雄輝 川上 莉果 加藤 千沙 奥村 尚子 萩原 友愛  
 上ヶ平 瑠奈 坂井 梨紗 伊藤 千珠 森 愛華 川崎 雄輝 川上 莉果 加藤 千沙 奥村 尚子 萩原 友愛
- 中学二年 青島 由実 渡部 美涼 松田 真由 加藤 千沙 奥村 尚子 萩原 友愛  
 ○中学一年 青山 楓 森 愛華 川崎 雄輝 川上 莉果 加藤 千沙 奥村 尚子 萩原 友愛
- 小学五年 吉田 あつみ 吉田 あつみ



会場風景





東海テレビ放送賞 中三 中村南名子

天地四望春

中三 中村南名子

東海テレビ放送賞 中二 西畑 茉夏

詩成洗硯書

中二 西畑 茉夏

東海テレビ放送賞 中二 廣川 瑞樹

地球大交流

中二 廣川 瑞樹

東海テレビ放送賞 中一 岩谷 梨瑚

理想の追求

中一 岩谷 梨瑚

東海テレビ放送賞 中一 小野田いおり

初春の夢

中一 小野田いおり

東海テレビ放送賞 小六 吉見 綾

伝統を守る

小六 吉見 綾

東海テレビ放送賞 小三 北村 美優

お正月

小三 北村 美優

中部日本放送賞 高二 高殿 葉月

福海漫筆山

高二 高殿 葉月

中部日本放送賞 高二 吉川 綾華

江都名道白山も光然春

高二 吉川 綾華

中部日本放送賞 中三 岡 大樹

山青花欲燃

中三 岡 大樹

中部日本放送賞 中三 竹川 美歌

龍池望五雲

中三 竹川 美歌

中部日本放送賞 中二 伊藤有珠沙

青雲大志

中二 伊藤有珠沙

中部日本放送賞 中二 坂下真菜恵

龍飛鳳舞

中二 坂下真菜恵

久富 愛莉 高井 佳栄 箕浦まどか  
 桑山かなみ 所 愛玖実 三宅 加純  
 小出 衣織 所崎 紫咲 宮崎 梨乃  
 小瀬 由佳 中内 美京 宮田 美来  
 小松 真子 中尾 友紀 三輪さくら  
 近藤 柚菜 永田 彩乃 柳世 美里  
 近藤 利佳 中野 若菜 山田 快音  
 齊藤 瑞季 新美菜結子 山田 実優  
 酒井 玲奈 西垣 優花 山田 実優  
 篠崎 葵生 濱田 拓海 新井本和花  
 鈴木 絢子 林 龍平 新井本和花  
 鈴木 琴葉 平野 歩実 石川 聡子  
 鈴木 真菜 舟橋 愛実 石川 聡子  
 須田舞菜美 前田 桃生 石川 聡子  
 李 泰憲 松下 桃伽 市川 果凛  
 世古口 宗 水谷 朋花 伊藤 千夏

中部日本放送賞 中二 田中 美有

雪光る富士

中二 田中 美有

中部日本放送賞 中一 菊川 華

天地清和

中一 菊川 華

中部日本放送賞 小五 吉田 多映

新春の光

小五 吉田 多映

中部日本放送賞 小二 杉江 凜哉

ともだち

小二 杉江 凜哉

伊藤 寧音 中西 悠菜 寺西 香来  
 内田 藍 中野 連志 成瀬 友姫  
 大草すみれ 前田明日香 西垣 綾花  
 奥田 彩乃 松本 怜菜 野口 瑞葵  
 加藤 咲穂 水谷 玲瑛 長谷川響子  
 河合 由夏 宮地 響子 藤村 真央  
 河西津夢美 ○小学二年 矢代 結愛  
 木村 心南 青木 愛依 ○小学一年  
 郷治 美羽 石田 美穂 稲田 愛華  
 小林 実央 今治 帆香 鬼頭 りお  
 小林 由季 大島千可子 桐山 珠実  
 坂井田江莉 大久さくら 重本 愛実  
 坂田 実優 奥村 莉名 田中向日葵  
 佐藤いずず 加藤 結愛 花澤 芽依  
 渋谷 紗那 熊谷 愛那 堀田 茉莉  
 白橋 和香 蔵 馨 山田 翔太  
 杉山 智紀 倉本 遥果 ○幼年 朋香  
 高田 一成 崎浦 奈那 稲山 蓮里  
 田川 聖菜 島田ひまり 杉村 蓮里  
 田中 結 高橋 陸翔 山田 芽吹  
 都築 湧人 恒川 結菜

### 第六十四回中日書きぞめ展を終えて

—— 一万人を超える来場者! ——

教育部長 後藤 啓 太

平成二十六年三月二十二日(土)・二十三日(日)、名古屋矢場町西、ナディアパーク二階アトリウムにて、総出品点数一六、五三一点の上位、奨励賞以上の作品を展示しました。本年は、好天と消費税増税直前ということもあり、ナディアパークのロフトには非常にたくさんの人出がありました。書きぞめ展の参観人数も一〇、二五八人を数え過去最高となり、多くの方々に本会の素晴らしい学生作品をご覧頂くことができました。来場され方々からは、「上手で、びっくりした」、「すごいね」、「また書道をやりたいな」と嬉しいお言葉を多数いただきましたこと、感謝申し上げます。本年、中部日本書道会は八十周年を迎えます。この書きぞめ展に参加していただいた学生さんが、九十周年、一〇〇周年と更に本会を発展させて下さることを願います。最後に、協賛会員、また会員の方々に多大なご協力、ご支援をいただきましたこと、厚くお礼を申し上げます。

### 中日書きぞめ展授賞式を終えて

褒賞部長 武内 峰 敏

今年三月に入っても、厳しい寒さが繰り返す異常気象でしたが、授賞式当日は受賞者を祝うように、青空が美しい好天となりました。デザインホール五〇〇席の会場は、受賞者、保護者の方々が満席となり、第六十四回中日書きぞめ展授賞が定時に開式されました。松永清石副理事長から、受賞者へお祝いの言葉、そして五月二十五日に開催の創立八十周年記念イベント内容と興味あるお話をいただき、授与式へと進みました。団体賞、文部科学大臣賞から理事長賞まで出席者一六〇余名、一時間間にわたり最後まで大きな拍手のなか、授与が粛々と行われました。また、企画委員会の先生方に多数ご臨席いただき、誠にありがとうございました。

# 第三十一回 読売書法展 第六十六回 毎日書道展 当番審査員

## 第三十二回 読売書法展 第六十六回 毎日書道展

### 特別賞選考委員

黒野 清宇  
樽本 樹邨  
田中 暁雨  
中野 玉英

### 会員賞選考委員

安藤 滴水  
原田 凍谷

### 当番審査員

伊藤 昌石  
伊藤 仙游  
梶山 夏舟  
梶山 盛滂  
加藤 子華  
神谷 采邑

### 漢字

馬場 紀行  
山本 雅月  
吉澤 劉石  
渡邊 笙鶴

### 当番審査員

鈴木 松崖  
安藤 滴水  
原田 凍谷

### 漢字Ⅱ類

### 近代詩文書

岡野 楠亭  
辻 苔泉

## 社中展・個展のご案内

### 第六回 書翠会展

代表 石川紫水

会期 平成二十六年七月二十九日(火)～八月三日(日)

会場 名古屋市民ギャラリー栄 七階 第二展示室

### 平成二十四年度豊田芸術選奨受賞記念 加藤矢舟書作展

会期 平成二十六年五月二十八日(水)～六月一日(日)

会場 豊田市民文化会館 展示室A

本会会員による書展のご案内を会報及びHPにてさせていただきます。  
会報には案内原稿を、HPには展覧会案内用ハガキを本部迄お送り下さい。  
次号(七月号)は八月中旬～十一月中旬の展覧会を掲載予定です。編集部

## 新入会員紹介(四月分)

### ●本部

青山 芳翰	近藤 珠翠	堀木 水明	片桐 清風
浅井 晨光	坂部 峻岳	堀野 明代	久野 美扇
浅井 優琳	柴田 清翠	堀野 明代	杉浦 溪聲
安達 啓子	杉野 亮子	都築 弘昭	鈴木 義昭
池田 夏爛	杉森 亮子	西三河支部	阿知和泰山
池田 宮子	杉山 洋子	水越 泉聲	大須賀忠峰
池田 博水	関根 春香	山口 白映	黒柳 真実
石田 珠山	関根 玉翠	源口 貴子	柴田登志枝
磯部 翠陽	高木 玉鈴	宮谷 江舟	竹浦 芳子
稲垣 芳辰	高木 貴游	村上 泉醉	竹平 美峰
稲葉 裕美	高木 玉鈴	室賀 芳艶	永谷 華実
稲吉小夜子	田口 麻衣	森下 則子	村岡喜代美
今村 古雅	竹内 雀邨	安田 瞳	矢藤 巧真
植木 紫友	棚橋 桃穂	渡會麻莉那	鶴田 硯峯氏
上杉真里佳	玉井 絢香	松田 典子	正会員
上山 翠芳	友松 芳春	横溝 憲吾	亀井 清吉氏
宇野安理沙	鳥瀧 玉瑛	肆矢 惇恵	新美 春峰氏
大鐘智美未	永井 智子	米田 清翠	正会員
大島 佑斗	中島 静鈴	井尾 琴流	新美 春峰氏
大羽 虹鷲	中道 千尋	安藤 翠昂	井尾 琴流
岡下 萌芽	成田 尚子	岩田 沙杏	後藤 智明
岡島 美紀	西尾 芳清	大野 満子	後藤 真希
小川 詩織	西尾 雅子	北村 翠蓉	佐合 菊香
長田 和記	西川 万央	栗田 文美	波賀野幸子
織田 知里	西脇 聖園	佐藤 史織	林 麗清
加藤 湖舟	橋本 繁子	内藤 大翠	藤森 綾香
加藤 脩平	橋本 枝垣	藤森 優香	藤森 綾香
金倉あゆみ	橋本 文瑤	藤森 優香	藤森 綾香
川本 柚香	服部 華谿	藤森 優香	藤森 綾香
神藤 華舟	服部 文瑤	藤森 優香	藤森 綾香
城殿 天祐	林 文瑤	藤森 優香	藤森 綾香
久野 哲史	林 孝湖	藤森 優香	藤森 綾香
鴻巣 玉兔	原 安周	藤森 優香	藤森 綾香
小坂 春艸	平野 遥菜	藤森 優香	藤森 綾香
児島 麻乃	平野 遥菜	藤森 優香	藤森 綾香
古園井美凜	深谷 東翠	藤森 優香	藤森 綾香
後藤 清麗	藤井 紅萼	藤森 優香	藤森 綾香
小林 玄潮	古橋 里子	藤森 優香	藤森 綾香
小藤 芳園	堀 星	藤森 優香	藤森 綾香
近藤あゆみ	堀 星	藤森 優香	藤森 綾香

心より哀悼の意を表し、ご報告申し上げます。  
平成25年10月9日  
評議員 宮西 玲子氏 享年60才  
評議員 川浦 碧濤氏 享年85才  
ご尊父 隆治様 享年85才  
○1月9日 正会員 亀井 清吉氏 享年82才  
○1月14日 正会員 新美 春峰氏 享年83才  
○1月16日 参与 樹神 北往氏 享年85才  
○1月19日 評議員 松浦 華苑氏 享年85才  
○2月10日 正会員 鶴田 硯峯氏 享年77才  
○3月1日 参与 久米 義山氏 享年93才  
○3月19日 評議員 松浦 華苑氏 享年85才



### あとがき

会報一七二号をお届けします。  
八十周年の行事が盛大に行われます。皆様方のご参加が成功か失敗かの鍵を握ると言っても過言ではございません。全員の力で是非成功を！  
「八十年の歩み」の編集に携わると、先輩方の叡智、そして質の高さを実感致します。その力をいただき「前進」しましょう。  
編集部

ホームページアドレス <http://www.cn-sho.or.jp>  
メールアドレス [info@cn-sho.or.jp](mailto:info@cn-sho.or.jp)

# 支部だより (平成二十五年度) 下半期

## 一宮支部

### ●研修旅行

日時 十月二十七日(日)  
 行先 飛騨高山  
 参加者 八十二名

朝八時に一宮を出発。東海北陸自動車道を走り高山市の「光記念館」に到着。「手島右卿記念室」と「上村松園と清方・深水」特別展を中心に鑑賞しました。

その後、高山グリーンホテル天領閣にて懇親昼食会。午後からは高山の古い町並を自由散策し、深まり行く秋を満喫しました。

### ●第五十九回一宮支部展

会期 十一月二十三日(土)～二十四日(日)  
 会場 一宮スポーツ文化センター  
 出品者 支部員 二二七名  
 青年部 一一三名

一宮市芸術祭参加事業の一環であり、一宮支部員の大家族展です。理事長の鬼頭翔雲先生はじめ、副理事長の松永清石先生、関根玉振先生、伊藤昌石先生に賛助出品を賜り、更に、次代を担うフューチャーズ(青年部)が、三団体一〇〇名、個人十三名が出品参加し、一層盛り上がる事ができました。

### ●第四十二回一宮支部学生書道展

支部展と同時開催  
 総出品  
 四、〇一一点

会場は出品者やご家族で賑わい、充実した「目の勉強」「親子のふれあい」の場となりました。ま



学生書道展

た、思い思いの文字や言葉を書きこむ「新年カレンダー作りイベント」も好評でした。

### ●講演会

日時 三月二日(日)  
 会場 一宮スポーツ文化センター  
 講師 顧問、元一宮支部長 木戸竹葉先生  
 演題 「古文書」はじめの一步  
 — 地方文書にみる庶民のくらし —

聴講者 一七九名(会員外四十一名)  
 江戸時代の庶民のくらしの中から、離縁状をはじめ、お伊勢詣り等の旅に必要な往来手形の解読など、ご自身で作成されたみごとにプロジェクター映像を駆使されての、初心者にもわかり易い講演でした。



講演会

### ●支部集会・交流会

日時 三月二日(日)  
 会場 一宮スポーツ文化センター  
 (交流会は真清田神社参集殿)

参加者 一三六名(交流会 一三二名)  
 集会は本部より理事長鬼頭翔雲先生、副理事長兼事務局長伊藤昌石先生にご臨席賜り、報告事項と二十六年度の事業計画が承認されました。

交流会においては、本部の先生方に加え、地元国会議員、一宮市長、県会議員、教育長等多くのご来賓の方々をお迎えし、和やかに開催致しました。

## 半田支部

### ●研修旅行

日時 十一月二日(土)～三日(日)  
 行先 新潟市「良寛の里を訪ねる」  
 参加者 三十六名(会員外十名)

本年は、支部設立五十周年記念事業として、はじめて一泊研修会を実施しました。早朝の出発、そして長時間の移動でしたが、本部顧問武山翠屋先生による車内講演会があり、良寛さまの生い立ち、村人たちから愛された人物像についてのお話いただきました。先生のおかげで気がつくど新潟市内に入っていました。

新潟市美術館では、良寛さんの真筆「法華讚」を心いくまで鑑賞。明日は、良寛美術館「木村家」真筆を息が掛かるぐらい近くで見られて一同感動。良寛の里美術館、良寛さんと貞心尼との淡い恋い歌、みんなうっとり。一泊二日の旅、良寛さまのお話を伺い、そして書を鑑賞して、参加者一同十分に良寛さんの魅力に触れた旅でした。



### ●支部集会

日時 三月十六日(日)  
 会場 半田市福祉文化会館  
 参加者 九十三名

集会は本部より関根玉振副理事長、横井

宏軒企画兼IT部長のご臨席を賜り、平成二十五年度事業・会計報告・二十六年度事業計画が承認されました。交流会では本部の先生に加え、半田市文化協会会長を迎え、和気藹々の中開催することができました。

### ●講演会

日時 三月十六日(日)  
 会場 半田市福祉文化会館  
 参加者 一二七名(会員外二十八名)  
 講師 本会副理事長 関根玉振先生  
 演題 「篆書の魅力」

篆書は関心があってもなかなか書いてみることがない書体である。先生の話術の上手さに引き込まれ気がつけば篆書の世界へ。スクリーンに映し出された文字で、その成り立ち等、解説をいただきました。篆書は小篆が一番大事、しっかりと基本を勉強、見取りけいこ、手本をしつかり見て書く大切さなどを、ユーモアを交えながら、お話をいただき一般参加者の方々も興味深く聞いておられた。又最後に先生の作品が先生にジャンケンに勝った人にプレゼントされました。一般の人もただでこんな楽しい講演会なら次回も、ぜひ参加したいとの声もありました。



西三河支部

●第四十六回支部会員展

日時 二月一九日(水)～二十三日(日)  
 会場 岡崎市美術館  
 出品数 二〇八点  
 入場者 一、〇九六名  
 本部より鬼頭翔雲理事長、松永清石副理事長、関根玉振副理事長、伊藤昌石副理事長の先生方の賛助出品をいただき盛大に開催することが出来ました。



支部会員展

●支部集会

日時 二月二十二日(土)  
 会場 岡崎市商工会議所

参加者 一一〇名  
 本部から鬼頭翔雲理事長、松永清石副理事長のご臨席を賜り、平成二十五年度事業報告、収支決算報告、平成二十六年事業計画を提案し全員一致で承認されました。



支部集会

●講演会

日時 二月二十二日(土)  
 会場 岡崎市商工会議所  
 参加者 一二四名

松井幸彦先生  
 「念ずれば花開く」と題し、講演していただきました。

ミャンマーへ教育者として赴任され、ミャンマーの現地の人たちと交流を持たれ、戦死された日本人の遺骨が四万五千柱あることを聞き国に働きかけ遺骨収集団へと導かれました。また子供たちのために学校を建設、日本でいらなくなった消防車を約三十五台を寄贈、これらにご尽力された苦勞話をされ、大変いい話が聞け皆さん感動され心に残る講演会でした。



講演会

●交流会

日時 二月二十二日(土)  
 会場 岡崎市商工会議所  
 参加者 一一〇名

鬼頭翔雲理事長、松永清石副理事長と共に楽しいひと時を過ごすことができました。



交流会

東三河支部

●研修旅行

日時 十月二十七日(日)  
 行先 伊賀上野市芭蕉記念館

参加者 四十一名  
 くみひも会館「くみひも体験」

「みのむしのねを聞にこよくさの庵 はせを」晩秋に一日、芭蕉翁のふるさと伊賀上野を訪れました。蓑虫庵をはじめ芭蕉翁の史跡が多くあります。当日は年中行事のために町中がたいへん混雑していました。

芭蕉翁記念館では、芭蕉祭特別展「芭蕉―書を楽しむ―」を開催していました。俳諧の変化に伴う書風の変遷を中心に、署名や文体の変化などに着目した展示がされており、心ゆくまで芭蕉翁の書を鑑賞することができました。



研修旅行 (全員)

伊賀上野は「くみひも」でも有名です。伊賀くみひもセンターで「くみひも体験」に挑戦しました。くみひも台の前に座り、講

師の説明に従って美しい色彩の絹糸を一本一本組んでいきました。できあがった作品は腕輪やストラップに仕上げました。



研修旅行 (くみひも体験風景)

●支部選抜展

日時 二月十三日(木)～二月十六日(日)  
 会場 豊橋市民文化会館  
 出品数 五十五点  
 入場者 四三九名

顧問の寺田樹風、星川双嶺、村田華穂、権田穂園各先生方、参与の鈴木瑞象、内藤大旺各先生方に玉作を出品していただき、各社中からは会員の三分の一名が作品を出品しました。会場には個性あふれる作品が並び見応えのある展覧会になりました。期間中雪の日もありましたが、中日書道会の先生方や地元の方々にご来場をいただきご指導を賜り、出品者一同、思いを新たにいたしました。



選抜展会場風景

濃飛支部

●研修旅行

期 日 十一月二十四日(日)  
行 先 大垣方面と岐阜県美術館  
参加者 二十三名

岐阜県に住んでいても大垣にはなかなか行けないから行ってみたいと言う皆さんの希望があり大垣方面と岐阜県博物館行きを決めました。七時に下呂を出発したバスは、中津恵那で会員を乗せ高速道路を走って先ずは大垣城へ。大垣城は平地の高台にあり江戸時代は十萬石の居城として栄え天



大垣城の前にて



大垣城内散策

守閣が今も美しい姿を誇っています。この天守閣は昭和三十四年に復興したものだそうです。中に入るとまだ新しい木の香がして

ました。中を見学し外に出て大垣公園の中を通り大垣市郷土館を見学しました。書や絵も数多く展示されていました。その後バスに乗り、松尾芭蕉の『奥の細道むすびの地』へ向いました。大垣は水の都とも言われ水門川は桑名への水上交通の経路として利用されてきました。今でもその影を偲ぶことが出来ます。その川の上にかかけられている赤い橋を渡ると『奥の細道むすびの地』があります。芭蕉の記行文の解説や人となり旅に生きた人生など少しは知る事が出来ました。ここを出てバスは大垣から岐阜へと向いました。博物館では川合玉堂の特別展が開かれていました。小品から大作まで目を見張ばかりでした。熱心に拝見している間に時が立ち出発の時刻が来てしまいました。一日は短かく恵那への着は九時頃でした。いい研修旅行だったねの声をお聞きし意義深かったかなと思えました。



奥の細道記念館の前で

●第三号会報発刊

●役員会

三月三十日(日) 於 下呂市

北勢支部

◎研修旅行

十一月十日(日)豊橋筆の、崇山工房へ。広島県熊野町に次いで全国第二位の生産本数を誇る豊橋筆は、歴史と品質の高さから、伝統的工芸品の指定を受けており、墨なじみが良いのが特徴とのことです。職人さんによる製造工程を見学し、最後の工程を各自が行いオリジナルブランドの筆が出来た喜びで参加者も満足げな様子でした。



研修旅行

◎講習会

日 時 二月十六日(日)  
場 所 じばさん三重  
参加者 七十一名

「文房四宝」をテーマとした講習会の第三弾「墨」について、墨運堂社長の松井茂浩氏をお招きし、ご講演頂きました。

ビデオで「墨のできるまで」を鑑賞した後墨の特徴や、それを生かした表現について詳しく説明して頂きました。水の種類や温度による滲みや墨色の違い、酒を加える手法等作品を制作する際に知っておきたい表現方法の数々に、出席者の方々も興味深く聴き入る様子でした。今回のお話で得た知識を今後の作品制作に生かしたいものと思います。

寒い日でしたが、一般参加十五名も含め、会場は熱心な聴講者で溢れ、又、四日市ケーブルテレビ取材もあり、後日放映されました。

記 伊藤艸亭



講習会

奥浜名湖畔のホテルで昼食をとった後、湖西市にある「豊田佐吉記念館」と、その生家を訪れました。「障子を開けてみよ、外は広いぞ」との佐吉の言葉は今日の日本の発展を表わすかのようです。その後、春華堂のうなぎパイ工場を見学し、お土産いっぱい帰路へ着きました。

(参加者三十七名)

中南勢支部

●支部集会・講演会・懇談会

日時 十一月三日(日)  
会場 松阪・武蔵野

本部より鬼頭翔雲理事長、伊藤昌石副理事長に御臨席頂き、支部集会を開催いたしました。平成二十五年度の事業報告・収支決算報告がなされました。

講演会

講師 田中郁子先生

演題 「生き生きと過ごすために」

参加者 三十四名



田中郁子先生を囲んで

関節が痛い、ちょっとしたことでも骨折した、最近物忘れが……気になる病気について骨粗鬆症診療第一線で活躍される田中医師がわかりやすく解説。運動やカルシウム

チェックを交えながら終始、楽しく、ご講演いただきました。

●支部会員展

平成二十六年一月三十日より四日間会員展を三重県立美術館に於いて開催いたしました。本部の先生方の作品を始め、会員、また一般の方の作品も展示しました。今回は屏風仕立ての作品や、十月の研修旅行で製作した絵付けの皿も併せて展示し、例年になく色あざやかな作品展となりました。今回は二十七回展、あと少して三十回の節目を迎えます。会員一同三十回展に向けて頑張つて参ります。



支部会員展 会場風景



研修旅行で制作した絵付け皿の展示

岐阜支部

●研修旅行

日時 十一月二十九日(金)  
行先 諏訪サンリツ服部美術館と諏訪大社下社

大社下社



参加者全員で

作品群を鑑賞することが出来、幸福な一刻でした。  
午後から、日本最古と云われる諏訪大社、下社を参拝、祭事のない清閑な社殿は一段と荘厳な雰囲気包まれ心が清められました。  
その後、野沢センター、りんご園と巡り、信濃路の光景を満喫し、一路岐阜に。何気ない会員同士の会話が絆を深め、意義のある研修の旅でした。

●チャリティー愛の募金

平成二十六年一月九日(木)岐阜県庁人づくり文化課(生涯学習、文化芸術振興に関する事業)に、岐阜支部長と、事務局担当次長二名が十万円を寄託。

●役員会議

三月十六日(日)午後四時～  
十一名出席

●事務局全体会議

三月十六日(日)午後五時～  
四十三名出席

平成二十五年度の事業報告、決算報告。

平成二十六年度の事業計画、予算(案)

右の項目に従つて協議いたしました。

記 林 玲玉



好天に恵まれた十一月二十九日、参加者四十二名にて「諏訪サンリツ服部美術館」そして諏訪大社、下社を訪れました。  
平成七年に開館された諏訪サンリツ服部美術館は、主に、茶道具、陶磁器、古書画等、又、シャガール、ピカソ、クリスト、熊谷守一等々、東西の多彩な近現代絵画が展示され伝統芸術文化を楽しむことが出来ました。  
開催中の「名物裂を探る」では、「裂」に織り込まれた歴史ある美、袱紗、本阿弥光悦の書状、軸、特別出品の光悦作、国宝白楽茶碗・銘・不二山」等、又と出逢えない